

シリーズ

秘蔵写真

今は昔の林業

第42回

中部森林管理局総務課

井上 日呂登

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介します。

「裏木曾」その六

大材吊り

「大材吊り」は急な斜面から貴重な大材を下ろす際に、丸太に「目戸穴」と呼ばれる穴を開け、綱を通し、大人数で力を合わせながらゆつくりと下ろしていく方法です。丈夫な麻綱が太い立木や根株に巻き付けられますが、摩擦で火が起ることさえあったそうです。

木曾でも大材吊りは行われていたのですが、裏木曾では急な斜面から伐採・搬出をしなければならず、



「付知川に於ける材木伐出の沿革と絵解」より大正時代初期の大材吊りのイメージ

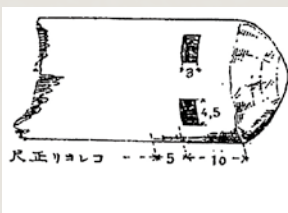
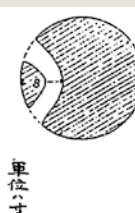
ればならない機会が多く、人力が頼みの時代には運材にこうした工夫・苦労がありました。ヒノキのみならずケヤキの大材もこの方法で動かされることがありました。

綱を通す「目戸穴」は目戸斧と呼ばれる特殊な細い刃を持つ斧を用いて、材を貫通する穴を開けられます。大材吊りは行われなくなつて久しい運材方法ですが、現在でも神宮(伊勢)の式年遷宮関連行事では目戸穴を模した貫通していない象徴的な装飾が彫られることがあります。

大正九年、裏木曾からの神宮(伊勢)用材を大材吊りで出材する様子(おそらく現在の東濃森林管理署加子母裏木曾国(有林))



(上図右) 大正五年帝室林野管理局発行「木曾御料林之造材運材」より目戸穴の図、(上図左) 目戸斧



(下写真) 平成十七年の神宮式年遷宮関連行事での御神木(長野県上松町)。目戸穴は実用性のない象徴的な装飾として僅かに彫られている。

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかししの写真を紹介するサイトです。当サイトへは、コードを読み込んでください。



ミズナラの遺伝資源を守る森林

うみしり
海尻ミズナラ等遺伝資源希少個体群保護林

設定目的

ミズナラは我が国の冷温帯落葉樹林を代表する樹種であり、北海道東端から九州南端まで広く分布しています。また、家具材や樽材等に利用されてきた、林業的にも重要な樹種です。

このため、北海道を中心とした全国各地の国有林において、ミズナラの遺伝資源を保存するための保護林を設定しており、当保護林はそのひとつです。

地況・林況

八ヶ岳連峰から東に流れ出る湯川に面する北向き斜面に位置し、斜面上部は高い岩壁が連続しています。標高は一、〇〇〇mを超え、冬の寒さは非常に厳しく、零下二〇度以下になることも珍しくありません。

林況は、樹齢約百年のミズナラ、シオジ、サワグルミ等が群生する天然林となっています。

所在地
長野県南佐久郡南牧村



国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年(大正4年)以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイヤルイン：026-236-2612



※詳細は、コードを読み込んでください。

シリーズ

森林官からの便り

国有林の現場の最前線で、働く森林官の仕事や、管轄する地域の特色などを紹介します。

【伊那谷総合治山事業所】

小渋川治山事業所

治山技術官 久古 和貴

小渋川治山事業所では、長野県下伊那郡大鹿村を事業地として、民有林内の崩壊地復旧などを目指す治山事業を行っています。

大鹿村は、南アルプス赤石岳のふもと、天竜川流域小渋川の上流部に位置しています。村を南北に縦走する中央構造線という断層に沿って、崩壊や地すべりを起こしやすい地質が広く分布し、いたる所に大規模崩壊が発生しています。特に、昭和三十六年に発生した豪雨災害「三六災害」では、伊那谷地域で多数の崩壊が発生し、甚大な被害を与えました。こうした崩壊地の復旧等を行うため、地域か



復旧が進む鳶ヶ巣大崩壊地（直轄治山事業）

らの強い要請を受け、県に代わって国が治山事業を実施することとなりました。小渋川地区では、昭和二十五年から直轄治山事業、昭和五十九年から直轄地すべり防止事業に着手しています。治山事業所の業務としては、管轄区域内で行う治山工事箇所の調



地すべり抑制のための直径約2.5m、延長約900mの排水トンネル（直轄地すべり防止事業）

査・計画や、予算要求等の事務作業、地元への説明などがあります。また、工事の実施にあたり、工事費用の算出などの事務、請負業者との調整や現地立会などの監督業務を行います。当地区の直轄事業はまもなく、計画した事業を完了する「事業概成」を迎え、その後は長野県へ移管することとなります。現在は、残っている工事の実施や、過去に施工した施設の補修工事を



現地調査中の筆者

行っています。
■未来の担い手へのメッセージ
私たちが進めている治山事業は、崩れた山を森林へ復旧させ、山間地域の生活を守り、下流の都市部への土砂流出も抑える重要な業務です。皆さんが暮らしている場所に関わらず、興味を持ってもらえることを願っています。



〈シリーズ「私の森語り」〉

シリーズ

「私の森語り」
もりかた

森林・林業との関わりの中で、
様々な課題に挑戦されている方
の取組を紹介します。



「こどもたちとみどりをつなぐ
橋渡し役になる」



2024ミス日本の大使
みどりの大使
安藤 きらり

■自己紹介

ミス日本みどりの大使は、緑の募金の呼びかけや、森林や木々への親しみを広げる役割を担っています。私が全国で活動する中で、大切にしていること、気がついたことを紹介したいと思います。

まず私は、こどもたちとみどりの関わりを大切にしています。私は学生時代に、幼稚園や学童、放課後デイスタービス、チャースクールなどで、こどもたちに接するアルバイトをしてきました。その際、こどもたちのインターネット依存による、自然体験の減少を問題視するようになりました。文部科学省などの調査機関に

よる報告では、自然体験の減少の影響として、こどもたちの体力や運動神経、問題解決能力、主体性の低下が指摘されています。

実際に私はそれを保育園などの現場で感じていました。外遊びを好むこどもが少ないこと、液晶画面上で学びを完結させてしまうこどもが本当に多くなっています。私は、多くのこどもたちに、自然と触れ合っ、より多くの学びを得てほしいという強い思いがあります。

■活動内容

みどりの大使の活動を通じて、こどもたちと関わることでできた経験を二つご紹介します。

まずは、山形で行われた木育体験プロジェクトです。鶴岡市立由良保育園、ちわら菜の花こども園にて、こどもたちに、木や森を感じ、身体運動を通じた教育機会が作られました。私は絵本「森はすごいなあ」の読み聞かせをしたのち、ポンポンを用いたオリジナルチャ体験を幼児たちといっしょに行いました。絵本の読

み聞かせで、木や森林の大切さを伝え、その後のオリジナルチャ体験に「葉っぱのポーズ」を取り入れて、ダンスをしました。「葉っぱのポーズ、覚えたよ」と終わった後に伝えてくれたこどももいました。こどもたちには、森林や木々に対する思いが芽生えるきっかけが必要です。その切り口の一つとして、私が学生時代打ち込んだチャを活かしたのは発見でした。きっかけは人それぞれだと思うので、今後も工夫をしながらこどもたちにアプローチしていきたいです。

二つ目は、NEALリーダー（自然体験活動指導者）の資格を取得したことです。森林などの自然豊かな場所、安全に配慮した実体験を提供することで、自然の素晴らしさを伝えることができる資格です。資格取得のための二泊三日の講習は、山梨県清里で行われました。全国から集まった参加者は、年齢も職業もみんなバラバラですが、自然体験がとても大事であるという共通の想いがありました。交流の中でさまざまなキャリアの視点でのお話を伺えました。元体育教員の方からは、スポーツを通じた自然環境教育の大切さを

教わり、大学で自然教育を学んでいる学生からは、自然が学びに影響することや、理想の環境について意見交換をしました。私自身の切り口は「こども」でしたし、みなさんそれぞれの切り口があります。それが私の視点を大きく広げてくれた経験でした。

今年八月の山の日には、このNEALリーダーの資格を活かし、ガイドウォークを行いました。「森の映画館」と題して、自然の中にある素敵な光景を参加者の皆様と一緒に楽しみました。

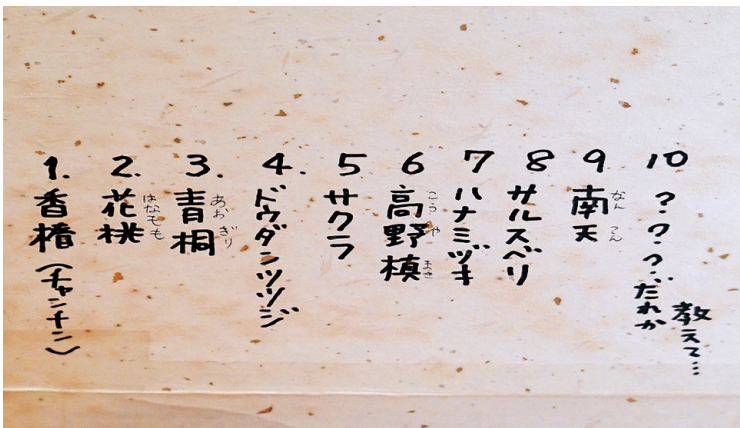
■メッセージ

これからも、得た知見や資格を活かして、たくさんの人々に森林や木々の魅力をお伝えしていきたいです。そして、多くのこどもたちが森林でのびのびと育つ機会づくりをしてみたいと思います。

■連絡先

一般社団法人ミス日本協会
〒一六〇一〇〇二三
東京都新宿区西新宿二一二一
京王プラザホテル南館九階





10番目の「???だれか教えて…」に答えてくれた救世主はいたのでしょうか

**何種類の木が
わかったでしょう?**

四ページで問いかけた十種類の木の名前は、木が納められた箱の後ろに写真の左側から順に記載されています。

最後(一番右)の木は、わからなかったようです。謎のままの木があるものの、いろんな木を集めて種類を調べた、その努力にも拍手です。



WOOD CHANGE

木材利用推進月間についてはこちらから

ウッド・チェンジとは、身の回りのものを木に変える、木を暮らしに取り入れるなど、木の利用を通じて持続可能な社会へチェンジする行動を指しています。身近なところに木から作られるものを取り入れてみてはいかがでしょうか。

日本の国土の約三分の二を占める森林は、そこから生まれる木材を建築物等に活用することで、資源の循環、地球温暖化防止、国土保全といった多面的機能の発揮や、林業・木材産業の振興による地域経済の活性化等に繋がること期待されます。

「ウッド・チェンジ
木づかいが 森をよくする
十月は「木材利用推進月間」です
暮らしを変える」



今日は「森の映画館」を楽しみましょう～

NEALリーダー(自然体験活動指導者)としてガイドウォーク



「葉っぱ」のポーズ
できるかな～

鶴岡市でのこどもたちとのポンポン体操

みどりの大使の活動を紹介します

編集長だより

(中部の森林へのご意見・ご要望等の投稿は、migoro@maff.go.jpまで電子メールでお送りください。)

今月はみどりの大使の安藤きらりさんに、「私の森語り」へ原稿をお寄せいただきました。特技に「チアダンス」のほか、一風変わった「二ワトリの爪を整えること」を挙げられるユニークな一面も。

安藤さんの原稿にありましたが、こどもたちに森林や木々に対する思いが芽生えるきっかけをつくるのは大人の役目です。こどもたちが「情報」として知るだけでなく、自ら関わり、体験することを通じて自然や森林の大切さなどを理解する機会を提供するのはとても重要なことだと思います。

「はたらくくるま3」の歌詞には「やまみち らくらく しんりんパトロールカー」と紹介されています。森って楽しそう、森でのお仕事ってカッコいいかも、と感じてくれるこどもが増えるといいな～。



「みどりの大使」「ミス着物」2つの称号!

みどりの大使の安藤さん、実は、もう一つの称号をお持ちです!

中部森林管理局のホームページ等へのアクセスは、以下を読み込んでください。



中部森林管理局
ホームページ

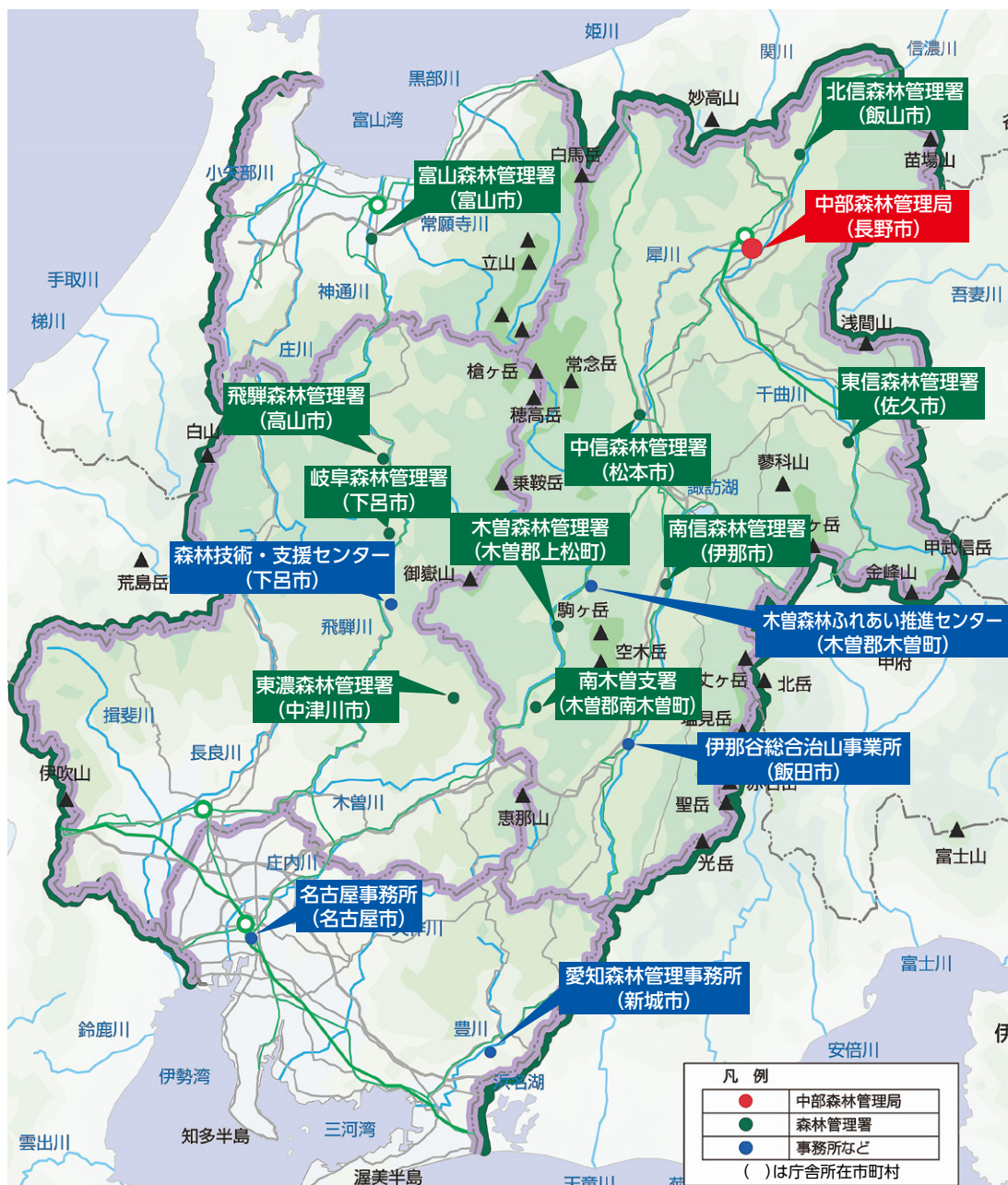


広報
「中部の森林」



用語の解説

本誌文中に掲載している主な専門用語・業界用語を解説。



名古屋事務所	〒456-8620	愛知県名古屋市中熱田区熱田西町1-20	TEL 050-3160-6660	c_nagoya@maff.go.jp
富山森林管理署	〒939-8214	富山県富山市黒崎字塚田割591-2	TEL 050-3160-6080	c_toyama@maff.go.jp
北信森林管理署	〒389-2253	長野県飯山市大字飯山1090-1	TEL 050-3160-6045	c_hokushin@maff.go.jp
中信森林管理署	〒390-0852	長野県松本市島立1256-1	TEL 050-3160-6050	c_chushin@maff.go.jp
東信森林管理署	〒384-0301	長野県佐久市白田1822	TEL 050-3160-6055	c_tohshin@maff.go.jp
南信森林管理署	〒396-0023	長野県伊那市山寺1499-1	TEL 050-3160-6060	c_nanshin@maff.go.jp
木曽森林管理署	〒399-5604	長野県木曽郡上松町正島町1-4-1	TEL 050-3160-6065	c_kiso@maff.go.jp
南木曽支署	〒399-5301	長野県木曽郡南木曽町読書3650-2	TEL 050-3160-6070	c_nagiso@maff.go.jp
飛騨森林管理署	〒506-0031	岐阜県高山市西之一色町3丁目747-3	TEL 050-3160-6085	c_hida@maff.go.jp
岐阜森林管理署	〒509-3106	岐阜県下呂市小坂町大島1643-2	TEL 050-3160-6090	c_gifu@maff.go.jp
東濃森林管理署	〒508-0351	岐阜県中津川市付知町8577-4	TEL 050-3160-5675	c_tohno@maff.go.jp
愛知森林管理事務所	〒441-1331	愛知県新城市庭野字東萩野49-2	TEL 0536-22-1101	c_aichi@maff.go.jp
森林技術・支援センター	〒509-2202	岐阜県下呂市森876-1	TEL 050-3160-6095	c_gijutsus@maff.go.jp
木曽森林ふれあい推進センター	〒397-0001	長野県木曽郡木曽町福島5473-8	TEL 0264-22-2122	kiso-fureai@maff.go.jp
伊那谷総合治山事業所	〒395-0001	長野県飯田市座光寺5152-1	TEL 050-3160-6075	

発行：林野庁 中部森林管理局
編集：総務課 広報
〒380-8575 長野県長野市栗田715-5
電話：026-236-2531
Mail：migoro@maff.go.jp
http://rinya.maff.go.jp/chubu/

メールマガジンに登録いただくと、広報「中部の森林」を発行日と同時にデジタル版を毎月配信します。
(毎月10日発行※編集の都合で、発行日が遅れることもあります)
登録サイト <https://mailmag.maff.go.jp/m/entry>



本誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。